clonotypus in Horto Botanico Facultatis Scientiarum Tôhoku Universitatis colitur. Dr. H. Tohda, in Tôhoku Universitate Botanices Assistens ac Horti Curator, fig. 1 in textu libenter photographavit; illi maximas gratias agit auctor.

—Folia et flores semper ab eadem stirpe !—

* * * *

イヌコリヤナギ *Salix integra* Thunberg ex Murray の葉の斑入品を記載した。下出葉は緑色であるが，中間葉と下位の成葉に類白色と淡緑色とがまじった斑紋が見られる。上位の中間葉は往々葉身全面が類白色になったり，あるいはそれに緑色の小斑紋が散在したりする。このような葉は7～8月には大抵脱落してしまう。上部の成葉は皆緑色である。

筆者は1937年，東北大学理科報告第4輯第12巻107頁にネコヤナギ *Salix gracilistyla* Miquel の斑入品をフイリネコヤナギ var. *variegata* Kimura の名で記載した。これは雄本で花は正常，下出葉は緑色で，上位中間葉と成葉とに類白覆輪斑が現われる。葉の中央の緑色部には全長にわたり不規則な淡緑斑が見られる。今回のイヌコリヤナギの上位中間葉のように葉身葉柄全体が葉緑素を欠き類白色を呈するものは出なかった。ヤナギ類の葉の斑入りには色々な型のあることが推定される。我国のヤナギ類の斑入品を最初に図解したのは水野忠暁の「草木錦葉集」(1829, 文政12年刊) であろう。ここではシダレヤナギ *Salix babylonica* L. の一品かと思われるものの斑入品がイトヤナギの名で描かれている。しかしこれは今日に伝わっているかどうか疑問である。明治以後の園芸書にはあるいはヤナギの斑入品が紹介されているかも知れないが，筆者はこの方面は全く不案内である。

□久内清孝名誉教授追悼集 227+32 pp., 18+16 pls. 1982. 東邦大学薬学部生薬学教室内追悼集発行世話人会．非売品．久内さんがなくなられてからもう1年半は日が経つ。早いものである。多くの追悼集が現われ，夫々に追憶をよび起すものであるが，これはことにそうした思いにかられる書物である。というのも久内さんの持っておられた人柄と性格，それにひかれる人々の情念，そしてそれらを巧みに編集された世話人会の御尽力によるものと考える。本書は二部から成っていて，前半は年代順に並んだ18葉程の記念写真と業績集とから成る。ことに15頁に余る随筆目録は広い範囲に亘っていて，久内さんが抱かれた興味の広さと深さとがしみじみと味わえるところである。後半は多くの方々の追悼文集で，じつに大ぜいの方々が色々な面から久内さんを偲んでおられるが，これもまた久内さんの広さをよく現わしていると思うのである。 (前川文夫)